

發行編輯人 川崎文治 福島縣石城郡平町長橋町廿五番地 發行所 常磐毎日新聞社

常磐新聞

定額 一月五圓 三月十五圓 半年三十圓 一年六十圓
 郵税 五厘
 廣告 第一行 五字 一日 五圓
 第二行 五字 一日 三圓
 第三行 五字 一日 二圓
 第四行 五字 一日 一圓
 印刷所 本報印刷部 印刷所 本報印刷部 印刷所 本報印刷部

刊夕日五十月一

來郡さるゝ...

巖谷小波先生揮毫會

▽... 本社の主催にて

巖谷小波先生が本郡教育會の招聘に應じ各處に講演、爲め本月下旬來郡さるゝを好機とし本社は平町兒童をして親しく先生の和伽噺に愉悅を感じしめんことを加講演會を開催する費用に當てる爲め風雅なる畫に配するに先生一流の俳句を以つてせる揮毫を乞ふて是れを左記の如く一般に頒布する事になりました、何卒各位に於かれては平町兒童娛樂の爲めに貢獻せんことを本社に微衷を諒せらるゝと同時に既に定評ある先生の芳墨を永遠に傳へんが爲め此舉を賛せられて陸續と御申込みの程を願ひ上げます

半切畫賛 十圓
 同句のみ 五圓
 絹畫賛 十五圓
 同句のみ 七圓五十錢

色紙、短冊、雅帳、扇面等は右の半額
 注意 豫定數に達すれば 直ちに締切ります

申込所 常磐毎日新聞社
 平町長橋町廿五番地

電気部施設
 モーター 變壓器 修理
 平町月見町
 佐藤鐵工所電気部
 電話 三六二番

金色夜叉のモデル

巖谷小波

その語氣は甚だ軽らかつたが、これが蓋し僕の腦にはかなり重く響いたのである。それもそのはずであるまいかその本人の意向と云ふのが僕にはせめて便りとして、一縷の望を繋いであつたのが此所であろう。打切られてしまつたのだもの。事此に及んでは綺麗さつぱり断念するの他は無い。そこで僕は兼てから此件には少からず心配して居てくれた例の紅葉君には委しく話した。すると僕以上に憤慨して、

「否、僕のなまじ諦めがよい丈一層憤慨の度を増して、果ては吐る様に云つた、「何だやア、君も意久地が無いぢやないか、何だつてこれまでに本人の口からは、そんな事の決して云へない様に、手をまはして置かないのだ。」と齒痒さうに云つた揚句、

「然しあの女ばかりが女ぢやない、僕が盟つて君の爲めに立派な妻君を見立て、やるよ。」

と懨める様に云つてくれた實にあの紅葉と云ふ人は、極めて友情に厚い人であつたと、今だにつくづく感心して居る。

事實はさつと前の通りだ。が此時紅葉君の眼には、屹度先方の令嬢がお宮式に映じたに相違無い。

何故ならば此時紅葉君の解釋によると、此の縁談の謝絶の理由は僕の家の財政の傾いて居るのと、僕の職の不生産的なのとがまづ以つて先方の氣に入らぬと思つたからだ。實際其頃は小説家と云へば（或は今日で）まづ貧乏商賣道樂渡世として堅氣の家からは好かれなかつたものだ。そしてそれがまた、同じ職にある君としては甚だ癢に觸つたのも決して無理ならぬ事である。

(つづく)

帝キネマ選抜映畫大公開

尾張龍千代丸 卷全
 事實哀話 御國の精華
 駒木根二等卒 卷全
 時代劇 (東京朝日新聞連載)
 清水次郎長 第二卷
 風瑠璃・尾上紋十郎・松枝つる・實川延笑
 市川百之助・其他小坂スタジオ大共演

泰西大活劇
 野球ローマンス
 本疊打玉 卷全

土曜キネマ
 ヒルリマス
 直營

有聲座

電話四四六番

町平町 吉田眼科醫院

冬季保温飲料
 美味にて滋養になる
 コーアを召上れ

森永ミルクコ、ア 六十文
 プレミアムアストコ、ア 四十文
 六十五錢也

マツモトヤ 電話二二四番

平町土橋通り
 原齒科醫院
 電話卅一番

料理御 開設
 大村や
 郡役所横通
 旅大村屋
 平町二丁目
 電話一七五番

遠藤パン (平驛前)

美味で評判の
 渡邊藥局
 平町三丁目
 渡邊政五郎 (郵便局向)

工方調劑
 工業藥品
 染料藥品

お寒さが加はります
 御用意は？
 毎朝霜が眞白に降る様になり誠に寒くなりました
 お寒さの御用意として先づ暖で丈夫なランシャ毛織類が一番です
 なかやにはオーバ、トンビ、大小學生マント、東コ、ト、毛子リ、等所謂防寒具が最も安價に、最も豊富に、揃つて居ます、何卒御用命の程を。

なかや洋服店
 平町二丁目
 (電話二〇三番)

時節柄出廻り多 米は目先安からん乎

買上の時機に非ず

末だ未だ下げ足らぬ風情

米價は豫報の如く新年となりて次第安の商勢を辿りつゝある發會ボケたるまゝ、些の活況を見せぬ當り如何にも頼りない市況である、供給不足で前途に高値を孕むて居ると云ふことには一致して居るけれども

現實の

不景氣と時節柄出廻りの多きは有力なる弱材料である、のみならず舊正月を控へて居る丈に金融關係が賣らなければならぬ米もあらふし、都會として滞貨が漸増の傾向であるから資金關係で整理しなくてはならぬものもあらふから

磐炭の自動車 男女三人を轢く

四丁目の魚市場にて

石城郡内郷村磐城炭礦自動車運轉手櫻井政吉(三)は同會社所有の貨物自動車第一九四號を運轉し平町彌宜町同會社平發電所より炭殻を満載し、緩に向つて十五日午前八時半頃平町四丁目魚市場前を疾走中十歳位の女子が遊んで居たので避けんとする機に魚市場前の事として魚商人蟬集した爲めあはやく見るまに平町南町小川鐵四郎(五)同白銀

被害者は重傷

町玉木佐吉(四)同一丁目佐藤キク(三)を轢き倒し胸部頭部大腿部等に夫々重傷を負はせ、大騒ぎとなり前記二名は高久病院にキクは赤心堂病院に何れも入院治療中である

火防活動寫眞

櫻村平署長と井上組頭講演の火防宣

傳活動寫眞は十七八の兩夜日本館にて開かれる筈であるが其際特に櫻村平署長及び井上消防組頭は火防宣傳に關する講演を爲す由

放火が飯より好き 危険極まる馬鹿者

軒下に藁を積んで點火 烈風中數回に亘り

石城郡内郷村大字綴字七坪坑夫加藤隆(三)は性來の放火狂にて舊臘中にも同村に數回放火、去る五日には同村字内町鈴木寅太郎方裏の積藁に放火、藁三百把を燒失せしめ、昨夜の烈風中にも同村中山三之助宅の庇及び蠶像に放火し更に同夜同村白水濱井傳一同荒川トク方の軒下に藁を積み重ねて火を放らるるを同村消防組が總出動して消火するを得たが十四日同人處爲たるを確め平署吉田、増子、安田各刑事協力逮捕したと

専門に盗む

鐵道員の服を着て徘徊した

石城郡好間村大字上好間字町田小野五郎(三)は昨年八月迄平機關庫に掃除夫として奉職中であつたが酒色に身を持ち崩し遂に職離れとなり悪心を起し平町を始めて湯本内郷等にて十數回に亘り自轉車専門の窃盜を働きたり平遊廓にて豪遊を極めて居

柱に頭を打ち

其儘即死す



家庭の關

みかん箱の利用法

季節になりますと、何處の家でもみかん箱が溜ります其まゝではたきつけにする

た處十四日午後四時頃鐵道員の服を着て石城郡江名町を徘徊中同村長谷場巡査に探知され平署にて取調中

悪フザ氣から

火鉢を轉がし

石城郡湯本町字三國桶商久野徳次(五)方居宅仕事場より十四日午前十一時頃發火し大車に至らんとせるを消し止めたが原因は同家の弟子佐藤義雄(三)外一名が悪フザ氣をして火鉢を轉がしたためである

不平受付

投書歡迎

自轉車の泥ヨケ、今晚貴紙に自轉車の數が増加した記事が掲載されてあつたが其自轉車が雨上り等のドロ道を遠慮なく走つて矢鱈に泥をハネさせるのは憤慨に耐えない、アレは何んどか泥ヨケの裝置を施さしめる必要があると思ふ(不満足)

みかんかごの利用法

竹であんだみかんかごは、あのまゝでは何の役にも立ちませんが、裏表両面を反古張にすると、一寸した物入になります、買物した時結んでくれる小紐類や、どき物から出る糸くづ、綿くづなどをに入れておくと大變便利であります

常磐片々

デフテリヤ誤診に關する先日の不平等付は是れを掲載する事が傳染病に對する警戒心を薄らげるものご二の醫師がイキリ立つ餘程筆者を命知らずと心得たものらしい

如何に向ふ見ずの筆者でも「命あつての物種」位は既に先刻御承知

傳染病の増加を祈つて筆を執るが執らぬかは寒風に頭をさす迄もなくヨクお解

石城教育部 會の新事業

今年夏季大學

縣教育會石城郡部會では十四日午後一時より郡内内評議員會を開き十四年度豫算を附議し異議なく原案を可決したが本年度の新事業として来る八月夏季大學を開催すべく事業費として前

舊曆何日 元旦は廿四日か

農村では依然として陰曆を用ひ越年し正月も

これに據つて居る向きが多いが、来る正月元日は陽曆の一月廿四日に相當するといふ説と廿五日が元日であるといふ説と二派に分れてその何れが正當であるかに迷つて居る地方が少なく

確定を

見ないとも來る廿四日に越年する者もあれば當日を元日としてお祝ひする者もあるといつたやうに農村の行事に二様の生活が行はれる譯である、これは畢竟するに

月齡に

基因する迷ひであるが月齡を調べて見ると來る一月二十四日以前の月齡が終つてその日の間に次の月齡が始まりその度は四分餘を二十四日の間に五分餘は翌二十五日にかゝるのである故に月の盈虚に基いて編製される大陽曆を用ゆるとすれば二

漁船が出動

風が静まり

石城郡江名濱小名濱方面の各漁村は十二日來の強風に殆んど漁船が陸揚げを爲し避難休業中の處十四日未明風風ぎると共に出漁したと

募集

文藝其他投稿を募集します

最初で

ある一月二十四日

を以つて舊正月とするのが正當である嚴正な